

八戸高専における 自己点検・評価への取り組み

平成29年12月5日(火) 八戸高専評議員会

■背景

○平成30年度 機関別認証評価受審

○平成30年度から認証評価基準が変更

- ・根拠資料の提示と「している」、「していない」の2択方式が基本
 - ・「教育の内部質保証システム」が重点評価項目
- 学校としての自己点検・評価の方針・体制、基準の設定が必要

○八戸高専の自己点検・評価

○～平成27年度

行動計画の取組結果による点検、HPで公表

○平成28年度

- ・独自の観点項目(11項目)による点検評価を実施
- ・評議員会による外部評価を受けてHPで公表

■昨年度の自己点検評価表（抜粋）

No.	観点項目	観点に関わる状況等	自己評価	外部評価
1	学生の入学試験と卒業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験: 本校の学科再編は入学試験に影響を及ぼしたか? 体験入学は? ・ 卒業: 卒業率、留年率 ・ 学年末試験、再試験者数 	<p>一日体験入学や中学校での高校説明会への派遣など、増募対策の事業を行っている。学科改組により特に環境都市・建築デザイン系の希望者が増加し、全体の入試倍率も2倍以上を維持した。4学期制の導入により、再試験の受験者数や科目数は増加したが、学年末試験の平均点の変動はわずかであり留年者数は前年度より減少した。</p>	4	4.11
2	学生の就職・進学について <ul style="list-style-type: none"> ・ 進学の状況 ・ 就職の状況 	<p>平成27年度の卒業生のうち、進学者の割合は47%であり増加傾向にある。そのほとんどが本校の専攻科をはじめ国立大学の工学系学部に進学している。平成27年度の4学科平均求人倍率は30倍を超えており、就職率100%を維持している。</p>	4	4.44
3	学生のキャリア教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育は機能しているか? ・ 企業内容説明会、就職・進学説明会、オープンキャンパス 	<p>各学年学生に対する校長による講演、地域テクノセンター主催の企業内容説明会（毎年2～3月）の開催、本科4、5年生または専攻科1年での企業や大学研究室等でのインターンシップ、本科4年各専門学級単位での企業・工場の見学旅行、専攻科1年のフランス技術短期大学(IUT)への研修、ほか授業や地域連携活動の中でも、さまざまなキャリア教育の機会を提供し、就職・進学はじめ学生へのキャリアへの意識を高めようとしている。</p>	4	3.89
4	学生の課外活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の課外活動は活発に行われているか? ・ 課外活動支援 	<p>多くの学生が運動部、文化部、各種コンテスト(ロボコン、プロコン、デザコン、スピーチコンテスト)等に参加し、活発に活動を行っている。平成28年度は東北地区高専体育大会B大会(バレーボール、ソフトテニス、柔道、硬式野球、サッカー、水泳、バドミントン)を本校主管で開催した。一方、これを支援する部活顧問等の教員の労務負担が本校のみならず課題となっており、本校では外部コーチや引率可能な外部臨時指導教員の配置、日曜日の部活動の制限等の措置を実施している。</p>	3	3.22

■本校の自己点検・評価方針、基準の見直し

○平成29年度 認証評価受審に向けた取り組み

本校における自己点検・評価の方針・基準等を再整備

(1) 方針

- ・独自基準に基づく点検・評価
- ・年度計画実施状況の点検
- ・行動計画実施状況の点検

(2) 体制

教育改善のPDCAサイクルを再整備

(3) 自己点検・評価方法・基準

- ・新認証評価基準(8基準、2つの選択的評価事項)をベース
- ・根拠資料に基づく評価(認証評価にも利用可能)
- ・評議員会による外部評価を受けてHPで公表

(4) 継続的見直し

自己点検・評価の方法・基準自体も継続的に見直し、改善

平成29年度 八戸高専 自己点検・評価表

評価
5: 期待を上回って実施している
4: 十分に実施している
3: 実施している
2: 十分には実施していない
1: 実施していない

資料3

2017.12.5

基準	No.	視点	観点	No.	根拠資料	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント		
1. 教育の内部質保証システム	1-A	自己点検評価の実施と改善	(1) 自己点検・評価の基準や方法に関する継続的見直しが行われているか。	1-A-1-1	H29第7回認証評価対応委員会議事録	自己点検・評価体制の再整備を図るため、認証評価対応委員会で八戸高専点検評価規則の見直し案を作成し、運営委員会で規則改正を行った。	4					
				1-A-1-2	H29.10月運営委員会議事録							
				1-A-1-3	八戸高専点検・評価規則							
				1-A-1-4	八戸高専自己点検・評価申し合わせ							
			(2) 学生、保護者、教員、卒業生、企業等の意見聴取が行われ、自己点検評価に反映されているか。	1-A-2-1	学生の声への投書件数	・学生の声への投書があり、学校側からの回答は掲示で行っている。 ・保護者懇談会を通じて出された要望等は、取りまとめ教員会議で配布し、全教員で共有している。 ・保護者の集いを通じて寄せられた意見や要望に対しては、後援会役員と学校側との会合で書面と口頭で回答するとともに、全教員に配布して共有している。 ・卒業後5年程度の卒業生、および過去5年の就職先企業へのアンケートを実施し、結果を自己点検・評価に反映している。	4					
				1-A-2-2	保護者懇談会報告書における保護者の意見・要望							
				1-A-2-3	保護者の集い 開催案内							
				1-A-2-4	保護者の集い 結果報告(保護者送付箋)							
				1-A-2-5	保護者の集い 結果報告(教員会議資料)							
				1-A-2-6	保護者の声設置案内							
7-1-2-2	卒業生アンケート											
7-1-2-2	企業アンケート											
(3) 結果が改善に結びついているか。	1-A-2-4	各委員会等における改善点	保護者懇談会や保護者の集いなどを通じて保護者から「秋学期に授業をして欲しい」との要望を受けたこともあり、教務委員会や関係ワーキンググループで改善策を検討している。平成30年度から、秋学期の1・2校時に授業を実施する予定である。	4								
1-B	年度計画・行動計画の実施	(1) 年度計画の実施状況が点検されているか。	1-B-1-1	年度計画実績報告	年度計画の各項目に対する実績を取りまとめ、高専機構本部へ報告するとともに、運営委員会で確認を経て、教員会議資料として配布し、全教員に周知している。	5						
		(2) 各委員会等の行動計画に対する実施状況が点検されているか。	1-B-2-1	行動計画取組結果報告書	各組織において行動計画に対する取組結果を作成し、全体を取りまとめている。運営委員会で確認を経て、教員会議資料として配布し全教員に周知している。	5						
	3ポリシーの見直し	(1) 3ポリシーが社会の状況の変化等に応じて適宜見直されているか。	1-C-1-1	八戸高専三つの方針	昨年度末に策定され、公表された。評議員会の意見も踏まえ、今年度内に見直しを行う予定である。	4						
2. 教育組織・教員・教育支援者等	2-A	教員の配置	(1) 準学士課程・専攻科課程における一般、専門の教員が適切に配置されているか。	2-A-1-1	教員一覧(別紙2-3)	準学士課程・専攻科課程の一般科目、専門科目を担当する教員が、専門分野ごとに配置されている。	4					
				2-A-1-2	在籍教員数							
	2-B	教員の採用・昇任	(1) 教員の採用や昇任に関する基準が適切に運用されているか。	2-B-1-1	教員選考規則	教員の採用や昇任に関する基準が定められている。教育・研究業績等の評価のほか、二次選考面接では模擬授業や英語での研究内容説明を実施するなど、基準が適切に運用されている。	4					
				2-B-1-2	教員の昇任基準							
				2-B-1-3	教員選考一覧表書式							
				2-B-1-4	教員採用二次選考会議開催通知例							
2-C	FD	(1) FD活動が実施され、改善に結びついているか。	2-C-1-1	FD実施一覧(H25-28)	FD活動が実施され、学校全体としてWebシラバスの入力が進むなど教育活動の改善に結びついている。	4	H28年度はFDの開催回数が減少傾向にある。					
3. 学習環境及び学生支援等	3-A	施設・設備	(1) 学校の施設・設備が適切な安全・衛生管理の下に活用されているか。	3-A-1-1	安全衛生委員会点検案内・記録	教育・研究に必要な設備については所管の係において使用簿や鍵の授受が行われており、適切に管理されている。また、安全・衛生管理についても毎月、安全衛生委員会において点検が実施されている。	5					
				3-A-1-2	主要設備稼働状況調査結果							
				3-A-1-3	教室等利用状況							
				3-A-1-4	体育施設利用状況							
				3-A-1-5	会議室・応接室利用状況							
			(2) ICT環境が十分なセキュリティ管理の下に整備され、活用されているか。	3-A-2-1	情報セキュリティポリシー基本方針	授業用にパソコン室、時間外は図書室のパソコンが利用でき、無線LAN環境が学内に提供されている。これらの管理は利用簿により管理される。セキュリティについては情報セキュリティポリシーが制定され、運用されており、適切と評価できる	5					
				3-A-2-2	情報セキュリティポリシー対策規則							
				3-A-2-3	情報セキュリティ管理規程							
				3-A-2-4	無線LAN学外者利用要綱							
				3-A-2-5	パソコン室利用状況							
				3-A-2-6	図書館PC利用状況							
			(3) 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集、整理され、有効に活用されているか。	3-A-3-1	図書館蔵書状況	図書委員会において系統的に収集が行われている。また、毎年、各種資料の貸出数・入館数を統計的に把握している。	4					蔵書の充実の要望があり、対応する必要がある。
	3-A-3-2	図書貸し出し数										
	3-A-3-3	図書館入館者数										
	3-B	学生支援	(1) 新入生(編入、留学含む)に対し、履修指導、設備等利用ガイダンス等が実施されているか。	3-B-1-1	始業式実施要領	本科1年や3年からの留学生、4年編入学生それぞれにきめ細かく指導を行っている。また、留学生の科目履修については担任と事務と教務によるチェックが行われている。	5					
				3-B-1-2	始業式日程表							
				3-B-1-3	入学者研修会実施要領							
				3-B-1-4	編入学生オリエンテーション実施要項							
				3-B-1-5	留学生履修科目確認表							
			(2) 学生の自主的学習に対する相談、助言体制が機能しているか。	3-B-2-1	オフィスアワー一覧	オフィスアワーやメンター制度、留学生に対するチューター制度、教員による数学・物理の寺子屋制度など多様なプログラムが用意されている。また、学級担任による個別面談や進路支援担当による進路相談会など充実していると評価できる。	5					H29年度はメンター制度利用者が減少している。
				3-B-2-2	メンター制度利用状況							
				3-B-2-3	メンター制度							
				3-B-2-4	チューター業務実施確認表							
				3-B-2-5	数学・物理寺子屋開催要項							
				3-B-2-6	学級担任の個別面談状況							
			(3) 留学生、編入生、障害のある学生への学習・生活支援が行われているか。	3-B-3-1	外国人留学生規則	外国人留学生に対するチューター制度があり、持ち込みパソコンを使用できる環境を整えるなど、支援が行われている。編入生に対しては入学前に添削学習指導を行うなどの支援が行われている。	4					
				3-B-3-2	外国人留学生の持ち込みパソコン使用覚書							
3-B-3-3				編入生添削指導状況								
(4) 学生の経済面や健康面に対する相談体制は機能しているか。			3-B-4-1	学生相談・サポート体制	精神科医や臨床心理士の相談も受けられる体制を整えた相談室や保健室が整備され利用されている。	5						
	3-B-4-2	相談室利用件数										
	3-B-4-3	保健室来室者数										
	3-B-4-4	奨学金利用状況										
(5) キャリア教育、進路指導体制は機能しているか。	3-B-5-1	校長キャリア教育実施状況	校長によるキャリア教育が毎年、主な学年に対して行われ、進路指導の参考になっている。また、就職に関しては求人システムがあり、学生が自由に閲覧できるようになっている。さらに、進路マニュアルが整備されており、学生の参考になっている。	5								
	3-B-5-2	三者面談実施状況										
	3-B-5-3	進路マニュアル(別冊子)										
	3-B-5-4	編入学試験結果報告資料										
	3-B-5-5	編入報告会ポスター										
	3-B-5-6	就職情報検索システム topページ										
(6) 課外活動等に対する支援体制は有効に機能しているか。	3-B-6-1	顧問一覧	全ての教員が課外活動の顧問を務めており、学生の課外活動に対する支援が有効に機能している。また、各種大会に参加している一方、外部コーチを積極的に活用した支援体制が構築されている。	5								
	3-B-6-2	各種大会参加状況										
	3-B-6-3	外部コーチ等指導実績一覧										

基準	No.	視点	観点	No.	根拠資料	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント
			(7) 学寮が生活及び勉学の場として整備され、有効に機能しているか。	3-B-7-1	学寮環境整備状況	生活の場として、基本的な施設・設備があり、経年劣化による机、椅子、照明器具の更新等に加え、全補食室への電気ケトル、男子棟への冷蔵庫の設置などを行い、施設・住環境の改善を順次行っている。今年度は女子寮生の増加に対応するため男子寮1棟を女子寮に変更した。勉学の場として、学習時間帯を設け、指導寮生による巡回等により学習環境を整えている。今年度、学寮寺子屋を再開、再構築し、寮生どうしの教え合いの場を設けた。運営・管理業務について、四学期制への対応等、学生の生活・学習環境に配慮した見直しを行っている。	4	老朽化している設備・施設が多数あり更新には予算的な制約を受けている。		
			3-B-7-2	学寮日課						
			3-B-7-3	学寮寺子屋実施状況						
4. 財務基盤及び管理運営	4-A 財務	(1) 学校の目的に沿った教育研究活動を遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	4-A-1-1	財務諸表	本校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な校地、校舎等の資産を保有し、運営費交付金、授業料、入学金等の経常的な収入を確保している。	4				
			4-A-1-2	学校要覧						
			4-A-1-3	学内配分額表(当初予算)						
		(2) 学校の目的を達成するための活動の財務上の基盤として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	4-A-2-1	学内予算配分方針	予算に係る計画については、企画室会議ならびに運営委員会において学内予算配分方針を審議のうえ決定し、その方針により適正に配分している。また、教員会議において報告するとともに会議資料等についても学内グループウェアの掲示板に掲示している。	4				
			4-A-2-2	学内予算書						
			4-A-2-3	教員会議議事録						
		(3) 学校の目的を達成するため、教育研究活動に対する資源配分を、学校として適切に行う体制が整備され、実際の予算配分が行われているか。	4-A-2-2	学内予算書	予算の配分方針は、企画室会議ならびに運営委員会で審議・承認を得ることとしており、その際本校の中期目標・中期計画を考慮し検討している。また、校長裁量経費を設け、より柔軟な予算執行を図っている。なお、学内予算配分方針、学内予算書等については、教員会議において報告するとともに会議資料等についても学内グループウェアの掲示板に掲示している。	4				
			4-A-3-1	学内決算書						
			4-A-3-2	校長裁量経費に関する調書						
			4-A-3-3	運営委員会議事録						
			4-A-3-4	設備整備マスタープラン						
			4-A-3-5	キャンパスマスタープラン						
	(4) 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	4-A-4-1	高専機構ホームページ(財務諸表)	高専機構として、ひとつの財務会計システムを構築しており、年度末決算後、このシステムにより財務諸表を作成し、高専機構ホームページで公開している。監査関係については、平成26年度に会計検査院による会計実施検査、平成28年度に監事監査を受けている。また、他高専の職員による高専相互会計内部監査、学内会計内部監査については毎年度実施している。	4					
		4-A-4-2	会計内部監査規則							
		4-A-4-3	内部監査報告書							
		4-A-4-4	高専間相互監査報告書							
		4-A-4-5	その他(外部)監査報告書							
	4-B 管理運営	(1) 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	4-B-1-1	組織・運営に関する諸規程	管理運営の諸規程は、八戸高専組織運営規則を基本に、各種委員会等規則を制定している。また、各委員会においては定例会議または必要に応じて開催しており、必ず事務職員が委員や幹事として参画している。	4				
			4-B-1-2	校務分担表						
			4-A-1-2	学校要覧						
			4-B-1-3	各委員会議事録(過去1年分)						
		(2) 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	4-B-2-1	危機管理規則	平成23年度に高専機構からのリスク管理に関する要請を受け、八戸高専危機管理規則を制定し危機管理に係る体制を整備している。また、危機管理マニュアルの平成29年3月版を策定している。	4				
			4-B-2-2	危機管理マニュアル						
			4-B-2-3	各種訓練・講習会等実施報告書						
		(3) 外部資金を積極的に受入れる取組が行われているか。	4-B-3-1	外部資金受入決定状況一覧	毎月の運営委員会、教員会議において外部資金受入状況を周知するとともに、外部資金の積極的な獲得を依頼している。	4				
			4-B-3-2	公的研究費使用マニュアル						
			4-B-3-3	公的研究費の運営・管理体制						
(4) 外部の教育資源が積極的に活用されているか。		4-B-3-1	外部資金受入決定状況一覧	本校では学校の目的を達成するために、国内外の高等教育機関や高等学校、地域企業、同窓生など、多くの外部教育資源を積極的に活用している。	4					
		4-B-4-1	各種交流協定書							
(5) 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。	4-B-5-1	各種研修等受講者一覧	高専機構本部が実施する研修会のほか、国立大学法人等の研修、国、地方自治体等が主催する研修等に職員を派遣し、職務遂行能力の向上を図っている。また、職員の能力及び業務遂行意欲の向上、組織の業務運営の一層の活性化を図ることを目的に、毎年度職員人事評価を実施している。	4						
	4-B-5-2	職員人事評価実施要領								
4-C 情報の提供		(1) 学校における教育研究活動等の状況についての情報が公表されているか。	4-C-1-1	八戸高専ホームページ(学校案内他)	本校における教育研究活動等の状況については、ホームページのほか、刊行物として学校要覧、学校案内、シラバス、募集要項、高専だよりなどがある。これらはホームページ上にも公開されており、広く一般社会に対して情報発信を行っている。	4				
5. 準学士課程の教育課程・方法	5-A 教育課程の編成と実施	(1) CPIに基づくカリキュラムとなっているか。	5-A-1-1	DP(CP)ごとの科目の流れ図	CPIに基づき、授業科目を学年ごとに適切に配置し、体系的に編成されているといえる。	5				
			(2) カリキュラムには、学生、社会のニーズが反映されているか。	5-A-2-1	自主探究テーマ一覧、表彰者一覧	社会の要請は課題発見・解決型の学生と考え、自主探究学習をスタートさせた。また、COC事業により地域志向科目を年々増加させて、地域のニーズを反映させており、社会や学生のニーズを反映していると評価できる。	4			学生の声を取り入れる姿勢はあるが、実績はない
				5-A-2-2	自主探究概要集					
		5-A-2-3		COC等の取り組み状況						
		(3) 創造力や実践力を育む教育が行われているか。	5-A-3-1	創成科目の実施状況	校外実習については、75%~100%の学生が参加しており、きわめて高い状態で実践的な教育が継続されており、評価できる。創造力に関しては第3学年から第4学年にかけてPBL科目が、5年生で卒業研究を行っており、適切である。	5				
			5-A-3-2	校外実習の実施状況						
		(4) 異文化を理解する姿勢を育む国際交流活動が行われているか。	5-A-4-1	国際交流派遣一覧	シンガポール、モンゴル、中国、フランス、フィンランドなど多様な海外研修プログラムが用意され、学生が参加している。また、教員もアメリカへの研修に参加するなど、教育・研究活動に役立てており、評価できる。	5				
			5-A-4-2	シンガポール・モンゴル留学案内						
	5-A-4-3		アメリカ研修資料							
	5-B 授業形態・指導法	(1) 学習指導上の工夫は行われているか。	5-B-1-1	アクティブラーニング科目一覧	アクティブラーニングを取り入れた授業(数理演習)やICTやCBTを取り入れた授業(情報処理)など工夫された授業が行われており、評価できる。これらの取り組みは点検委員会にて授業方法の点検が行われ、改善しようとする取り組みが行われている。	5				
			5-B-1-2	アクティブラーニング取り組み事例						
			5-B-1-3	ICT活用授業例						
			5-B-1-4	授業実施状況点検						
		(2) CPIに沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。	5-B-2-1	シラバスチェック状況	シラバスは作成後の点検でカリキュラムの設計に適合するかも点検し、学習・教育到達目標のどの項目に適合するかも点検している。最初の授業では教員から学生に内容を説明しており、在校生アンケートからも8割以上の学生が説明されたことを認識している。	5				
			5-B-2-2	在学生CBTアンケート結果(シラバスの授業での活用状況)						
5-B-3-1			自学自習リスト							
(3) 学修単位科目の自学自習時間の実質化に向けた取り組みが行われているか。	5-B-3-1	自学自習リスト	自学自習時間は成績エビデンスに集約され、学校として把握している。その実質化については一部の科目についてCBTベースの授業で統計を取り、おおむね満足が得られる時間の学修を確認している。	4			CBT利用科目以外についての自学自習時間の把握が望まれる			
	5-B-3-2	授業科目における自学自習データの統計の例								

基準	No.	視点	観点	No.	根拠資料	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント				
5-C	成績評価、単位・卒業認定		(1) 成績評価基準、単位認定基準、卒業認定基準の周知が図られているか。	5-C-1-1	シラバス	該当の基準はシラバス、学生便覧で周知されるほかに、各学期ごとの成績通知表に同封して周知されており、適正である。	5							
				5-C-1-2	学生便覧									
				5-C-1-3	通知表裏面									
				5-B-2-2	在校生CBTアンケート結果									
			(2) 成績評価は適切に行われているか。	5-C-2-1	答案返却期間時間割	成績評価はシラバスに記載した基準により行われる。学生が試験結果を確認できるよう答案返却を行い、その後、成績に対する異議申立期間を設定しており、適正と考える。	4							
				5-C-2-2	異議申立て可能期間の設定状況									
				5-C-2-3	成績判定資料									
			(3) 進級・卒業認定は基準に従って適切に行われているか。	5-C-3-1	成績判定資料(単位数、審議対象科目、必得科目、自主探究、欠課時数等)	成績判定資料の通り、決められた基準に沿って適正に行われている。	4							
			6. 学生の受け入れ	6-A	APIに沿った学生の受け入れ	(1) APIに沿った入学選抜方法となっているか。	6-A-1-1	AP周知(募集要項、学校案内、中学校訪問資料、HP等)	数学・理科・英語に秀でた学生を受け入れるよう、APを周知し、推薦・学力選抜において、当該科目の傾斜配点を実施している。また、ものづくりへの関心を面接で聞いている。	4				APIに入学選抜方針を盛り込む必要がある。
6-A-1-2	学校案内の選抜方法説明													
(2) 入学者がAPIに沿っているか、入試方法への反映はなされているか。	6-A-2-1	入学動機アンケート				入学生のアンケートから7割以上の学生が本校の理工系の教育内容[AP2]やものづくり[AP3]、技術を通じた社会貢献[AP4]に興味を持っており、入学者はAPIに沿っていると評価できる。また入学者は、入学選抜の方針に沿って決定されている。	4							
	6-A-1-2	学校案内の選抜方法説明												
(3) 増募対策は効果的に行われているか。	6-A-3-1	入試委員会行動計画報告書				最近の入学人数を参考に中学校をランク分けし、中学校訪問・地区入試懇談会・中学校での高校説明会を行っている。また、中学生一日体験入学を行い、これが受験するきっかけの大きな理由になっている。上記の取り組みにより入試倍率が堅調に推移している。	5							
	6-A-3-2	体験入学参加者状況												
(4) 入学定員に照らして入学人数は適正か。	6-A-4-1	定員充足率(別紙2-2)				直近5年間の平均での定員充足率は104.9%、平成29年度は103.8%であり、適正といえる。	5							
	6-A-4-2	入学人数等一覧												
7. 学習・教育の成果	7-A	学習・教育の成果				(1) 成績評価、卒業認定の結果から、DPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。	7-A-1-1	不可科目延べ人数	卒業要件からDP1-6を満足できる。DP1は一般科目の修得単位数、DP2-3は専門科目の審議対象科目、DP4は主に自主探究、DP5は地域志向科目、DP6は自主探究・卒研・英語科目の修得から卒業したすべての学生がDPを満足すると判定できる。	4				2学年まで進んでいる必修科目の制度によりDPとの整合はより具体的になる。DPと必修科目の対応について整理・確認することが必要。
							5-C-2-3	成績評価資料						
							5-C-3-1	卒業認定資料						
							7-A-1-2	審議対象科目						
			7-A-1-3	地域志向科目										
			(2) 卒業時の学生、卒業後5年程度の卒業生、就職先等の意見聴取の結果から、学習・教育の成果が認められるか。	7-A-2-1	卒業時達成度記録簿	卒業生アンケートの結果から、7割以上の学生が本校で学習した内容が現在も役立っていると回答しており、学習・教育の成果が認められる。就職先からの回答も基礎知識や情報処理能力・専門的知識の問いに、6~7割の企業が「高い」「少し高い」と回答しており、学習の成果が認められる。	5							
				7-A-2-2	卒業生・修了生アンケート									
				7-A-2-3	就職先企業アンケート									
			(3) 最近5年間の就職率、進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	7-A-3-1	就職率(別紙2-4)	進学率・就職率は5年100%を堅持しており、学習・教育の成果が表れている。	5							
				7-A-3-2	進学率(別紙2-5)									
			(4) 就職先、進学先は養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	7-A-4-1	就職先一覧	進学先には理工系大学、就職先には製造業に就職している。これらの就職先や進学先からのアンケートからDPを満足しており、要請する人材像に適していると判断できる。	5							
				7-A-4-2	進学先一覧									
7-A-2-2	卒業生アンケート													
7-A-2-3	就職先企業アンケート													
8. 専攻科の教育活動の状況	8-A	専攻科教育課程の編成、学習・研究指導、成績・修了認定	(1) CPIに基づくカリキュラムとなっているか。	8-A-1-1	DP(CP)ごとの科目の流れ図	CPIに基づき、授業科目を学年ごとに適切に配置し、体系的に編成されているといえる。	5							
				8-A-2-1	講義、演習、実験、実習等のバランス									
			(2) CPIに照らして講義、演習、実験、実習等のバランスが適切であり、学習指導上の工夫は行われているか。	8-A-2-2	ICT活用授業等の例	ICTを利用した授業(総合英語C)や地域課題に取り組む授業(EDや特別研究)を取り入れている。特別研究の割合が24%となり、講義等のバランスは適切に配置されている。	4							
				8-A-2-3	地域と連携した教育(ED等)の状況									
				8-A-3-1	海外派遣者リスト									
			(3) CPIに掲げる国際的な発表・討議力、異文化理解を育むための国際交流活動は行われているか。	8-A-3-2	国際交流活動の状況	海外研修を最大6カ月可能とし、半分の学生が3~6カ月間の海外研修を経験している。特別研究の最終発表では全員が英語発表を行っている。また、海外での国際会議での英語発表を推奨している。	5							
				8-A-4-1	一般科目・専攻共通科目一覧表									
			(4) CPIに基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	8-A-4-2	特別研究・指導教員一覧表	CPの編成方針に基づき、一般および専攻共通科目を設定している。また、特別研究の指導体制を整備し、さらに各種発表会等を通じて、解決能力育成に努めている。	5							
				8-A-5-1ab	ガイダンス等における各規則説明状況									
			(5) 成績評価・単位認定基準および修了認定基準がCPIにしたがって策定され学生に周知されているか。また成績評価・単位認定および修了認定が適切に実施されているか。	8-A-5-2	アンケート等による学生認知状況	成績評価・単位認定・修了認定基準は所定の単位や英語能力・研究能力を評価しており、CPIに掲げるそれぞれの項目を満足しており、修了認定も専攻科委員会において、別紙資料の通り適切に行われている。	5							
				5-C-2-3	単位認定、修了認定資料									
				5-C-3-1										
	8-B	APIに沿った専攻科学生の受け入れ		(1) 専攻科APIに沿って適切な入学選抜方法が採用され、実際の学生受け入れが適切に実施されているか。	8-B-1-1	入学募集要項	科学技術の重要性や多角的視野を有し、多様な価値観理解に意欲のある学生を受け入れられるようAPを周知し、推薦と学力選抜において面接等で確認している。また、本科卒業前に専攻科入学予定学生に対する説明会を実施して、再度APIについて確認している。	5						
					8-B-1-2	専攻科進学予定学生の説明会案内								
				(2) APIに沿った入学を受け入れているかどうかを検証する取り組みが行われており、その結果が入学選抜の改善に役立てられているか。	8-B-2-1	自己アピール文	推薦・学力選抜試験の提出書類の一つである「自己アピール文」の記載内容および面接によってAPI(技術の重要性)からAP5(多様な価値観の意欲)を把握している。	4						
					(3) 実際の入学人数が入学定員に対して適切か。	8-B-3-1	定員充足率(別紙2-2)	定員充足率は学科改組後、101%と順調に推移しており、適切と評価できる。	5					
				8-B-3-2		入学定員(学則等)								
8-C				専攻科の学習・教育の成果		(1) 成績評価・修了認定の結果から判断してDPIに沿った学習・教育研究の成果が認められるか。	5-C-2-3	成績評価資料	年度当初のガイダンスと成績評価資料から必要な単位数の他に、DPを満足するための科目(実験、学外研修、EDなど)の修得を義務付け、これを満たすよう指導している。また、修了認定も必要な単位数および、DPに合致した修得すべき科目を習得した上で修了を認定するようにしている。	4				
	8-C-1-1	特別研究発表会概要集												
	8-C-1-1	外部研究発表一覧												
	8-C-1-2	学会発表等受賞者一覧												
	5-C-3-1	修了認定資料												
	(2) 学生、修了生、進路先関係者等からの意見聴取の結果から判断してDPIに沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-A-4-1	修了時の達成度評価結果			卒業生アンケートより7割以上の学生が学習内容が現在も役立っていると回答している事から学習・教育の成果が認められる。また、就職先からの回答も専門的知識の問いに6~7割の企業が「高い」「少し高い」と回答しており、学習の成果が認められる。	5							
		7-A-2-2	卒業生・修了生アンケート											
		7-A-2-3	就職先企業アンケート											
	(3) 就職や進学など修了後の進路状況から判断して学習・教育・研究の成果が認められるか。	7-A-3-1	就職率(別紙2-4)			進学先には理工系大学院、就職先には各種の公務員や製造業に就職しており、APIに掲げるものづくりに適した人材を輩出しており、要請する人材像に適した進学先・就職先と評価できる。	5							
		7-A-3-2	進学率(別紙2-5)											
7-A-4-1		就職先一覧												
7-A-4-2		進学先一覧												

基準	No.	視点	観点	No.	根拠資料	状況	自己評価	改善点	外部評価	コメント
A. 研究活動の状況	A-A	研究活動の状況	(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	A-A-(1)-1	研究活動の目的、方針等規定 (学生便覧 教育研究活動の基本的な方針)	研究に関しては方針が “地域社会に密着し、産業界に貢献できる工学系高等教育機関としての研究をすすめる” と制定されている	4	テクノセンター規則等の見直しにより詳細な規定を策定する		
			(2) 研究活動等の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	A-A-(2)-1	研究実施体制 (学校要覧 設置学科・専攻)	本校では1学科4コース制(本科)、1専攻4コース制(専攻科)の下、教育・研究を進めている。 一般科目を専任教員21名(教授8、准教授9、助教4)、専門科目を専任教員41名(教授18、准教授14、講師2、助教4)による教育・研究を行っている。	5			
				A-A-(2)-2	研究体制 (学校要覧 教員)	教育研究支援組織として、総合情報センター(図書館を含む)、地域テクノセンター、地域文化研究センター、ものづくりセンター、教育研究支援センターがある。このうち、これらの施設が産学官連携共同研究の支援を通じ、地域社会に密着し、産業界に貢献できる工学系高等教育機関としての研究、およびその成果の専門教育への反映に資する。				
				A-A-(2)-3	支援体制 (学校要覧 研究支援組織)					
			(3) 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	A-A-(3)-1	論文・口頭発表一覧 (地域テクノセンター報 研究成果)	H28年度実績で、 論文等56件、口頭発表98件、科研費19件、 外部資金受入31件・約7,900万円、共同研究8件、受託研究4件であった。	5			
				A-A-(3)-2	研究紀要題目一覧 (紀要 目次)					
				A-A-(3)-3	科研費一覧 (地域テクノセンター報 科研費一覧)					
				A-A-(3)-4	外部資金一覧 (運営委員会資料 外部資金受入決定状況)					
				A-A-(3)-5	共同研究一覧 (地域テクノセンター報 共同研究一覧)					
			(4) 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	A-A-(4)-1	体制図 (地域テクノセンター報 組織)	・地域テクノセンターに教育研究部をおき、研究全般の実施状況および問題点の把握、改善に努めている。 ・科学研究費助成への応募に関する講習会(9/9)、公的研究費に関するコンプライアンス研修会(2/27)を開き、科研費への意識向上を図った。	4			
A-A-(4)-2	改善事例 (運営委員会資料 地域テクノセンター)									
B. 地域貢献活動等の状況	B-A	地域貢献活動等の状況	(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	B-A-(1)-1	地域貢献活動の目的、方針等規定 (学生便覧 3. (1)教育研究活動の基本的な方針)	学生便覧の教育研究活動の基本的な方針の項において、地域貢献活動の目的として、 “地域に密着した工学系高等教育機関として教育研究活動の個性化を図る” ことが定められている。	4			
			(2) 地域貢献活動等の目的に照らして活動が計画的に実施されているか。	B-A-(2)-1	地域貢献活動等の方針 (学生便覧 3. (1)教育研究活動の基本的な方針)	学生便覧の教育研究活動の基本的な方針の項において、地域貢献活動の基本方針として、以下の6項目が定められている。 ・地域中学校の理科教員を対象とした研修及び小中学校での出前授業の実施など、地域への教育サービス提供に努める。 ・「学術的研究成果」の公開や「ものづくりの楽しさ」の体験を通じて、地域住民とのふれあいに努める。 ・図書館、体育館等の構内施設の開放を通じて、正規課程の学生以外のものが学習する機会を提供する。 ・地域の公的な各種委員会の委員を通して地域貢献に努める。 ・地域社会に密着し、産業界に貢献できる工学系高等教育機関としての研究を進める。 ・産学官連携共同研究の成果等を専門教育に反映する	5			
				B-A-(2)-2	公開講座等実施計画と結果 (地域テクノセンター報 公開講座)					
				B-A-(2)-3	出前授業等実施計画と結果 (H28年度出前授業実施リスト)					
				B-A-(2)-4	その他の活動の計画と結果 (地域テクノセンター報 地域産業等への技術協力・助言)					
			(3) 実績や参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	B-A-(3)-1	公開講座等実績一覧 (地域テクノセンター報 公開講座)	公開講座12件(満足度率94%)、出前授業7件を始めとして多数の実績がある。また、その他にも、あおり県企業内容説明会、COCフォーラムまちなか文化祭など多数の催しを行っている。	5			
				B-A-(3)-2	公開講座等受講者アンケート結果 (公開講座受講者アンケート結果)					
				B-A-(3)-3	出前授業等実績一覧 (出前授業実施リスト)					
				B-A-(3)-4	その他の活動実績一覧 (運営委員会資料 地域テクノセンター)					
				B-A-(3)-5	その他の活動参加者アンケート結果 (COC+あおり県企業内容説明会 Enq.)					
B-A-(3)-6	(八戸高専COCフォーラムEnq.)									
(4) 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	B-A-(4)-1	体制図 (地域テクノセンター報 組織)	地域テクノセンターに産学交流部を置き、地域貢献活動、産学(金)交流活動、地域企業との連携に対する問題点の把握、改善を図る体制をとっている	4						